

会議報告

Conference Reports

ERINA-IMEMOモスクワ・シンポジウム・「新しい北東アジア2004」

ERINA調査研究部研究員 ドミトリー・セルガチョフ

5月14日、モスクワにおいて世界経済国際関係研究所(IMEMO)と共同で「新しい北東アジア2004」と題して日口シンポジウムを開催した。ERINAは、ロシア極東地域の様々な研究機関や地方政府等との深い関係を構築してきた。しかし、ロシア中央との関係強化も非常に重要なことであり、今回のシンポジウムを通じて、モスクワの諸機関との関係を強化することが1つの目的であった。ERINAは、ロシアの意思決定者及び知識人に北東アジアの諸問題及び変化をより深く理解させることによって、日口交流をより一層実り多い密接なものとし、ロシアを含めた北東アジアにおける地域間協力の促進を目指している。

シンポジウムには、平山征夫知事が団長を務める新潟県の代表団、ERINA、IMEMO、ロシア科学アカデミー極東研究所、ロシア外務省第1アジア局(大陸部東アジア)及び第2アジア局(その他の東アジア及び南太平洋地域)、日本経団連及びモスクワ日本センターなどの代表が参加した。

N.A.シモニアIMEMO所長及び吉田進ERINA理事長が総括議長を務めた午前中のセッションでは、平山知事が基調講演を行い、北東アジアにおける交流構想及びその中における新潟県の役割を紹介した。日本海側の中央に位置する新潟県は北東アジア諸国へのゲートウェイであり、極東口



平山征夫新潟県知事の基調講演；右隣はN.シモニアIMEMO所長

シアとの歴史的関係は長い。平山知事は、北東アジア各国の相互補完的特徴を活かし、経済、環境、運輸・物流、エネルギー等の分野における交流を拡大することにより、北東アジア経済圏の形成を図り、この地域の平和と発展に貢献することを目指していることを強調した。さらに同知事は、今回のシンポジウムを契機として、モスクワから北東アジアの拠点・新潟に対する関心を高め、国境を越えた地域開発や産業創造を巡る良きパートナーとして今後とも共に前進していきたい旨述べた。

基調講演に引き続き、シモニア総括議長が最近の日口関係の進展状況及びエネルギー分野での協力関係について報告した。同報告によれば、2003年1月に小泉総理がモスクワを訪問した際、経済、政治、軍事、文化などでの交流を把握する日口行動計画が採択され、両国関係は新しい段階に入った。エネルギー協力の見通しは非常に明るく、日本とロシア両国に大きなメリットをもたらすと述べた。シモニア所長によれば、新潟県は天然ガス採掘の経験及び技術を持っており、この分野における協力の拡大に向けて大きな貢献ができる旨述べた。

V.V.ミヘエフ・ロシア科学アカデミー東洋学研究所副所長は、東アジア共同体形成の問題及び展望、そしてこの過程におけるロシア、日本、特に中国の役割について報告した。日本、中国及び韓国は、世界市場における米国やEUの影響力拡大に対抗するために、経済力を合わせる必要性があり、ロシアも東アジアにおける共同体形成に積極的に参加すべきである旨力説した。

吉田ERINA理事長は、日口経済協力の問題、極東開発、それに向けた日本の資金導入の展望等について報告した。ここ数年来、極東での日口経済協力に関する案件は多かったものの、実現したプロジェクトは殆どない。吉田理事長は、ロシア中央政府が極東の経済発展及びそれに向けた対日協力についてあまり関心を見せていないという印象がある旨述べた。また同理事長によれば、ロシア極東・シベリア地域は同国ヨーロッパ地域とは歴史的条件や経済発展水準等が異なる以上、ロシア中央政府は、極東・シベリアに対して異なる経済政策を施すべきであり、また日本の円借款に注目を払って国際協力銀行の融資をどのように導入す

¹ 世界経済国際関係研究所(IMEMO)は1956年モスクワに設立され、世界経済発展の問題に関する研究を行う、ロシアの最も有力なシンクタンクであり、グローバルな問題、世界経済の動向の分析・予測、国際関係の問題、国際比較分析、転換期のロシア経済、政治、軍事戦略などの研究を行っている。

るかを考えるべきである。

午後の第2セッションは、G.I.チュフリンIMEMO副所長及びV.I.イワノフERINA調査研究部長が議長を務めた。E.V.アフアナシェフ・ロシア外務省第1アジア局長、杉本侃・日本経団連日口経済委員会参与、N.M.ラティポフ・ロシア外務省第2アジア局日本課長、チュフリン議長、朝妻幸雄・日本経営教育センター所長、V.N.パブリヤテンコ・東洋学研究所日本研究センター所長及び坂井康一・新潟県総合政策部国際交流課長が報告をし、北東アジアにおける対立から協力への転換、日口2国間関係の現状及び問題、民間企業間の交流、貿易及び投資上の障壁、日本センターの活動及び役割、日口行動計画の意義、北東アジア交流圏形成の展望等についての議論を行った。また、イワノフ議長は、ERINAのプロジェクト「北東アジアにおけるエネルギー安全保障」の経緯、内容、目的及び今後の予定について説明を行い、北東アジア諸国間のエネルギー協力の展望について述べた。

最後に吉田・シモニア総括議長は、シンポジウムの成果を高く評価し、参加者たちの報告が聴衆に深い感銘を与えた旨述べた。従来、日口経済関係や日口貿易を理論的に分析して共通認識を得られる機会は少なかったが、今回のシンポジウムは1つの良い機会となった。ERINAとIMEMOは今後も同様の会議を開催し、このような形の協力を拡大していくことで合意した。



会議全景、報告者は吉田進ERINA理事長